

市民の声等の公表事項

令和 8 年 1 月 9 日作成

【件名】 県立高校再編整備計画（後期実施計画案）に対する山陽小野田市としての強力な反対表明と存続への働きかけに関する提言
【受付 令和 7 年 1 2 月 1 7 日】 【担当課 企画課】
【分類】 (1) くらし・手続き (2) 子育て・健康・福祉 (3) 教育・文化・スポーツ (4) 企業・産業・観光 (5) 安全・安心 (6) その他
【市民の声】 提言の趣旨 山口県が推進する「県立高校再編整備計画 後期実施計画（素案）」は、特に小野田地区からの高校消失をもたらすものであり、これが実行されれば、地域経済の停滞、人口の急激な流出、そして将来的な教育の質の低下という不可逆的な負の影響を本市にもたらします。 つきましては、山陽小野田市の将来に責任を持つ市長におかれましては、本提言を重く受け止められ、市として直ちに、県に対して計画の再考と小野田工業高校の存続を強く働きかけていただくことを切に要望いたします。 提言の根拠となる問題点 1. 検証なき計画強行による行政手法の横暴性と不信感 県教育委員会が、過去の統廃合が地域に及ぼした影響について事後調査の結果を明らかにしないまま、更なる統廃合を推し進める姿勢は、極めて一方的かつ横暴です。

市長への要望：市長は、この行政手法の不透明性に対し、市民の立場から検証結果の公開と、地域住民との十分な合意形成を県に強く要求すべきです。

2. 現状のやり方がもたらす「教育の質」と「地域社会の崩壊」リスク
地域の声や過去の検証を無視し、行政主導で統廃合が強行された場合、本市に以下の深刻なリスクが及びます。

教員不足と教育の質の低下リスク：統廃合による学校規模の変更や地域社会の衰退は、山口県で教員を目指す若者の魅力を著しく低下させ、将来的な教員不足を招きます。これは、本市の生徒の教育環境の質を根底から揺るがす重大な問題です。

地域経済の急激な収縮と人口流出の加速：小野田地区からの高校の消失は、生徒・教職員による地域内消費という経済の循環を断ち切り、地域経済の死を意味します。また、「地元に高校がない」という事実は、子育て世代の転出を加速させ、市の人口減少に拍車をかけます。

3. 大規模化と学校生活の活性化の関連性に関する疑問

県が主張する「大規模校化＝活性化」という論理は、長距離・長時間通学を強いることで生徒の体力・精神的負担を増やし、むしろ充実した高校生活を送ることを困難にします。

市長への要望：市民の教育環境の守り手として、長距離通学が本市生徒の生活に与える具体的な悪影響をデータで示し、大規模校化の是非を県に問い質すべきです。

4. 小規模校の維持こそ地域社会の未来への投資

高校は、教育機関であると同時に、地域における文化、交流、防災の拠点としての重要な機能を有しています。

市長への要望：小規模校を廃止するのではなく、地域住民と連携した「開かれた学校づくり」を推進することで、学校を核とした地域コミュニティの活性化と定住人口増へとつなげる長期的な視点を県に提言し、小野田工業高校の存続を訴えるべきです。

結論

本提言は、山陽小野田市民の切実な懸念を代弁するものです。市長にお

かれましては、この意見を真摯に受け止め、市民の代表として、山口県教育委員会に対し計画の再考と小野田工業高校の存続について、最大限の力を尽くして働きかけていただくことを強く要望いたします。

【回答】

平素から本市行政の推進に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、この度、提言いただいた件につきまして、ご回答申し上げます。お寄せいただいた提言に記載されておりますとおり、山口県教育委員会が策定された県立高校再編整備計画後期実施計画の素案において、令和13年度に宇部工業高校と小野田工業高校を再編統合して、両校が行ってきた工業教育を踏まえ、工業科の教育機能の充実を図る新高校を現在の宇部工業高校の校地に設置することが示されております。

この計画では、今後も中学校卒業者数の更なる減少が見込まれる中で、中・長期的視点に立って高校教育の質の確保・向上を図るため、また、工業高校という専門学科については、一定の学校規模の確保や学科改編の必要性を考慮された上で判断されたものとされております。

山口県教育委員会において、こうした教育的な観点から判断されたものであると認識しておりますので、市としてこれに意見する考えはございません。また、働きかけを行うことも考えておりません。